

令和4年度 学校自己評価計画の最終報告書

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度 判断基準	集計結果 ()内は前期	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	GIGAスクール構想を推進し、ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	教務課	効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている項目においてA評価が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	生徒による後期授業評価アンケートでA評価 51.5% (50.3%) →評価【C】(C)	授業において生徒がChrome bookを利用できる頻度は増えたがICTの活用が進んだ反面、利用方法には更に改良の余地がある。来年度は、さらに効果的なChrome bookの活用を推進し、質の高い授業を実施していく。
			授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	生徒による後期授業評価アンケートで肯定的評価 84.0% (84.0%) →評価【B】(B)	肯定的な評価は昨年と同程度で、前期から良好であった。コロナ禍においてもできる質の高いグループ活動および探究的な学習活動を実施し、生徒の自己肯定感を高め、確かな学力の育成を図り、生徒の進路実現につなげたい。
	② 「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	進路指導課	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が92.7%→ 評価【B】 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	前年度と同様な結果であった。「主体的」「探究的」「協働的」な取り組みの内、特に「探究的」(課題を深く掘り下げて考えようとする)態度を、来年度はさらに伸ばしていきたい。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	家庭学習時間量調査 7月 11月 →評価 1年 11.8%【D】 39.9%【B】 2年 28.7%【C】 36.7%【B】 3年 32.6%【B】 29.0%【C】 全体 24.4%【C】 35.2%【B】	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合は改善し、評価は全学年でBであった。令和4年度より、新しい観点別学習状況の評価が始まっており、この評価を通して、生徒が自らの学びを振り返る機会を増やしこれまで以上に生徒の主体的な学習を促していく。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける	進路指導課 1・2学年	1,2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※1・2年別に達成度を判断する	1,2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒 1年82名・26.3% (93名・33.6%) →評価【D】(C) 2年89名・33.9% (94名・35.3%) →評価【C】(C)	どの学年も例年以上に学年団と教科が連携し、計画的に学習指導に力を入れたが、進路目標に対する意識の違いからか標準偏差がやや広がった。学習支援ツールの体験版を導入するなどの工夫をはかったが、1,2年の模試の評価はDやCとなった。今年度の取組を検証し、改善するとともに進路行事、探究活動を通しての進路意識の醸成に力を入れていく。
進路指導課 3学年	10月の校外記述模試及び、11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満 11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満	3年10月の校外模試平均偏差値50以上の生徒 54名・25.1% →評価【B】 3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上の生徒 38名・20.9% →評価【C】			
⑤ 進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	①難関国立大学、金沢大学に10名以上合格 ②北信越地区の国立大学に40名以上合格 ③北信越地区の公立大学に50名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	①13名(金沢大13名) ②32名(新潟大1名、富山大16名、福井1名など) ③35名(石川県立看護大6名、石川県立大7名など) → 評価【C】	1年次よりコロナ禍ということもあり、例年に比べると低学年での探究活動が制限された感があった。それが主原因とは言い切れないが、確固たる進路目標を持たせる指導が弱かったため、来年度は進路行事、探究活動を通しての進路意識の醸成に力を入れていきたい。	
2	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	生徒課	生徒アンケートから、いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 83% (84.6%) →評価【D】(D)	挨拶実施に関する生徒アンケートでは、83%の肯定的な返答であり評価はDである。気になるのが、前期より肯定的な回答が減少したことで、集会等の実施がなく意識付けができていなかったことと考察する。来年度は集会等で、生徒達自身で挨拶の励行を呼びかけ合いをさせたい。
		生徒課	自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 A 10件未満 B 15件以下 C 20件以下 D 21件以上	石川県警察本部交通違反指導状況データより 4~12月集計(4~7月集計) 71件 (55件) →評価【D】(D)	前期に並進走行が目立ちたくさん指導を受けた。後期に入り指導件数は減ってきた。今年度は、交通事故件数が7件と昨年より下回り安全運転への意識は高まっているようである。ルール遵守の精神をもう一度、再確認させたい。
		生徒課	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケートから、肯定的評価が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 91% (93%) →評価【B】(B)	今年度はいじめ案件に関して確認することはできなかった。生徒達も学校生活に関しておおむね居心地が良いと答えており落ち着いた学習活動が継続できていたと推測する。いじめ案件0は、終業式やHP上で公開し、来年度も相手をリスククトできる思いやりの心を醸成させていきたい。

		④ 自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	歯科の受診率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1月末現在 歯科受診率73.1% →評価【B】	集団と個別の保健指導を継続してきたことが受診率を押し上げてきたと考える。次年度はさらなる向上を目指したい。
3	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	① 運動部・文化部ともに挨拶などの規範意識の醸成を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	充実感や達成感を感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	生徒による後期学校評価アンケートで肯定的評価 88% (87%) →評価【A】 (A)	生徒達は年間を通して部活動から得られる充実感、達成感はアンケートでも肯定的でした。最後の公式戦まで諦めせず、粘り強く取組ませることの大切さや励ましの声を心掛けていきたい。また教職員全体で支援するとともにそのチャレンジする姿のバックアップを継続していきたい。
		② 運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	年度末の実績で評価 中間報告 (運動部) 県高校総体総合成績 総合25位 (R3:20位) →評価【C】 (R3:20位 B) 男子25位 (R3:24位) 女子24位 (R3:12位) (文化部) 年間の獲得賞状枚数 28枚 (R3:27枚) →評価【A】 (R3:A)	県高校総体総合成績は男子が25位と横ばい、女子は24位とR3年度の12位からランクダウンの結果でした。部活動でのやりがいや達成感のアンケートで高評価であったが、成績のダウンを受け各運動部に対して必要な支援や環境面での改善等を直接の面談にて理解を得ていきたい。 文化部の各種コンクール等における活躍は、今年度も昨年並みで特に棋道部の活躍が目覚ましかった。またかるた部も幾度と入賞を果たし、大きく貢献した。引き続き次年度も活躍が見込まれ、支援していきたい。
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	① 学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	保護者による後期学校評価アンケートで肯定的評価 94.6% (90.4%) →評価【B】 (B) 保護者の来校のべ人数 550名 (525名) →評価【C】	教育活動の内容をホームページ、学年便り、メール配信等により情報提供した結果、高い評価をいただいている。緊急メールが遅いというお叱りもいただいた。次年度も積極的に、かつ、速やかに情報を提供していきたい。
		② 各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末までで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	3.1冊 →評価【B】	課としての取組は昨年度より多くのができたが、学年や教科との連携がうまく取れなかった。昨年(3.6冊)よりやや貸し出し冊数が減少した。平均値はまずまずだが、個人の貸出冊数に差がある点を課題としていく。
		③ 学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動が A 10以上 B 8以上 C 6以上 D 6未満	年度末の実績で評価 6つ 金沢マラソンボランティアにボランティア委員、フェンシング、女子テニス、家庭、放送、茶道の1委員会、5部活動の計106名が参加 →評価【C】	昨年に引き続き、金沢マラソンへ1委員会及び5部活がボランティアとして参加できたことは大変良かった。毎年、ボランティア活動への参加が恒例化してきていることは、好ましいことと捉え、次年度も参加を呼び掛けていきたい。
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務削減に向けて勤務時間を適正に管理し、また、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	① ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	教職員による後期学校評価アンケートで肯定的評価 71.0% (61.0%) →評価【B】 (B)	教職員が各自勤務時間を適切に管理したことが良い結果につながったと考える。学校全体の具体的な方策としては、昨年に引き続き定期試験期間の生徒の下校時刻を早めたこと、休日の警備員の配備が午前から可能となり、生徒玄関の施錠等教職員の負担が軽減されたこと、年休を取りやすい環境が作れたこと等が挙げられる。来年度は定時退校日を月2回に増やすことも検討したい。 さらに、今年度デジタル採点システムの導入(百問繚乱)が、功を奏し、採点業務が随分進んだ。月80時間以上の時間外勤務の人数も減少の傾向にある。今年度効果があったものを継続しつつ、来年度も新たな策を講じていきたいと思う。